

## 「私学の無償化」の世論の波を築こう!!

その①

# 第12回 くまもと高校生フェスティバル 高校生が県議会議員と熱い意見交換!!

約1か月前になりますが、熊本で「第12回くまもと高校生フェスティバル」が開催され、大盛況でした。その様子を報じた「熊本私学助成をすすめる会ニュース」が届きましたので掲載します。

### 熊本私学助成をすすめる会ニュース

2023年度 第3号 2023年12月17日発行

11月19日(日)に開催された『第12回くまもと高校生フェスティバル』が、大盛況のうちに終了しました。今年の高校生フェスティバルは、サンロード新市街を会場に、熊本市主催の『くまもと花博2023』とコラボする形で開催することができました。当日は午前10時より、蜂屋友菜実行委員長(熊本中央高校2年)の挨拶、ルーテル学院少林寺拳法部の迫力ある演武からスタート、その後、専修大学熊本玉名高校ダンス&チアリーディング部の演技に続きました。

#### 県議会議員との意見交換 高校生鋭くきり込む

『若者の政治参加をすすめるために、今何をすべきか』と題し、今回の目玉の一つである高校生と県議会議員(各党代表)による意見交換を行いました。この企画は、高フェス実行委員会が普段取り組んでいる「私学助成拡充」の活動の中から出てきたものです。選挙権が十八歳以上に引き下げられたものの、若者の政治に対する関心は低く投票に行かない現状は、これからの日本や熊本県のことを考えた際に大変不安です。いかにすれば若者が政治に関心を持ち、自らすすんで投票するようになるのか、高校

### 私学助成街頭第12回くまもと高校生フェスティバル 大盛況で幕を閉じる!!

生と県議会議員(または各党代表)と一緒に考える場を創出していきたいというねらいからです。各党からは、県議会議員の南部隼平氏(自由民主党)、城下広作氏(公明党)、鎌田聡氏(立憲民主連合)、星野愛斗氏(日本維新の会)、また日本共産党から県ジェンダー平等委員会事務局長の奥田木の実氏が参加されました。「若者の政治参加をすすめるためには」という問いに対し、参加された方々からは「今、若者が少なくなっていて、意見が通りにくい状況にある。自分たちの意見が通れば(若者が)関心を持つのではないか(南部)」、「生まれてから死ぬまで政治とのかかわりは切れない。すべて政治で決まっているのであって、そのようなことを学校でも教えるべきだ(城下)」、「若者の政治離れは最近始まったことではないので、このような機会を持つこと自体大切なことである。SNSなどで若者とどうつながるかを考えるといいのではないか(鎌田)」、「日本はある意味、政治に関心を持たなくても生活できる平和な国だ。投票は自由だが、誰かに投票してほしい(星野)」、「若い人たちも意見は持っているはずだが、大人が気付いていない。(若者の)意見を聞く機会をつくるべきだ(奥田)」などの意見が出されました。また「私学助成」に対する投げかけに対しては、「学びたいことを学べるのが大切だが、今の段階ですべて無償にするとは言えない(南部)」、「教育は誰でも安心して受けられるべきだ(城下)」、「教育にはお金がかからないように、大学まで無償化すべき。国の教育予算があまりにも少ない(鎌田)」、「(教育の)負担軽減はすべきだが、すぐに全部は難しい。一部貸付にして外(他県)に出ていかないようにしてはどうか(星野)」、「教育は権利であるから、お金を払うこと自体おかしい(奥田)」など、様々な意見が出されました。予定の四十分間があっという間に過ぎるくらいの、内容のある意見交換でした。

その後は、学校紹介を兼ねた制服ファッションショーや、5校(ルーテル、中央、鎮西、真和、国府)6バンドによる演奏、尚絅高校のダンス愛好会とギターマンドリン部の発表へ続きました。『未成年の主張』では、自身のこれまでの厳しい生き立ちから、それでも負けずに現在生徒会として頑張っている生徒の話など、聞きごたえのある主張が続きました。最後は新市街をいっぱいに使った群舞『君の花になる〜じょいふる』を披露し、観に来ていただいた方々から大きな拍手をいただきました。



裏面へ

**高校生と県議 熊本市で意見交換**

県内の私立高校生と県議らのトークイベントが19日、熊本市中央区の新市街アーケードであり、若者の政治参加などについて意見を交わした。

私学助成の拡充を訴える高校生らが主催する「くまもと高校生フェスティバル」のメイン企画。自民党、公明党、立憲民主党、熊本維新の会、共産党の代表5人が、高校生5人の質問に答えた。

「高校時代はどんな生徒だったか」との問いに対し、県議らは「ひきこもりでチームばかりしていた」「やんちゃで高校生がやってはいけないことをした時期もあったが、生徒会長も務めたなどと赤裸々に告白した。

若者の政治離れを食い止める策としては、「若者と意見交換する場をつくり、政治を身近に感じてもらうことが大切」「若者と一緒に政策を考えて、自分の意見が世の中を変えていくという成功体験を増やしていきたい」と答えた。

参加した熊本中央高2年の山崎結菜さんは、「議員さんは遠い存在と感じていたけど、高校時代のエピソードを聞いて身近に感じた。若者が政治に興味を持つように、SNSなどで積極的に情報発信してほしい」と期待した。

フェスティバルでは、私学助成の拡充を求める署名集めや高校生平和大使による活動報告などもあった。(後藤幸樹)

**若者の政治参加 どう進める?**

国向け署名...からくまもとまで「私学の無償化」を前進させよう